

カントリークラブ
木曾駒高原CCのいきものたち



確認種一覧はこちらをご覧ください。

見つかった動植物の総数

哺乳類21種／両生類7種／爬虫類6種／鳥類67種／昆虫類849種／植物735種

調査の結果、木曾駒高原CCには1,685種の動植物が生息していることがわかりました。
ここでは、その一部をご紹介します。

[植物]



ヤマシャクヤク



ヒメシャガ



ヤマユリ



ナガミノツルケマン

[哺乳類]



カモシカ



ノウサギ



キツネ



ムササビ

[両生類・爬虫類]



アカハライモリ



アズマヒキガエル



ジムグリ

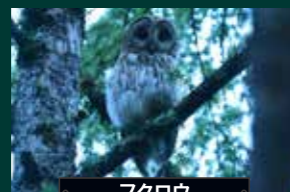


ニホンカナヘビ

[鳥類]



ヤマドリ



フクロウ



オオアカゲラ



オシドリ

[昆虫類]



エノゼミ



アサギマダラ



オオトラカミキリ



ミヤマクワガタ



かつて、ゴルフ場は開発行為の象徴とされてきましたが、
現在では、重要な生態系の拠点として再評価されています。

木曾駒高原CCは、標高およそ1,000mに位置し、
平地～亜高山帯までに生息・生育する動植物を
幅広く確認できる環境です。

ゴルフ場内は、草地・樹林・水辺の
3つの環境で構成されており、
それぞれ異なる環境に適応した
生きものたちが生息しています。

周囲の別荘地は、山や溪流が隣接する
古くからの樹林環境が維持されており、
安定した森林や、溪流環境を好む種類が生息しています。

日常的なモニタリングに加え、2025年に大規模な動植物調査を実施しました。
本資料では、その概要をご紹介します。

別荘地は、ケヤキやカエデ類を中心とした落葉広葉樹林が広がっています。木曽駒高原C.C.が1963年に誕生してから半世紀以上、自然環境に大きな変化は見られず、古くからの落葉広葉樹林が維持されています。このような環境を反映して、別荘地内ではミズナラ、コナラなど森林内部の安定した環境で見られる植物や、地域で保全されているヤマユリなどの希少な植物が生育しています。哺乳類では主に山地に生息するカモシカなどが、鳥類では、標高1000m以上の山地で繁殖を行うオオアカゲラや、密度の高い林を好むヤマドリなどが確認されました。昆虫類では日本最大のトラカミキリである、オオトラカミキリが確認されました。



ゴルフ場

ゴルフ場内には、草地(グリーン)の周囲にアカマツやヤマツツジを中心としたモザイク状の樹林があります。草地では、開けた環境を好むノウサギやキツネなどが確認されました。樹林では、ムササビ、ニホンリスなどの樹上で生活をするリス科の哺乳類や、カッコウ、アオゲラ、シジュウカラなどの鳥類、ジムグリやニホンカナヘビなどの爬虫類が確認されました。池や湿地等の水辺では、鳥類のカルガモ、オシドリや、両生類のアカハライモリが確認されました。場内では、ヒメシャガ、シラネアオイ、ヤマシャクヤクなどの希少な植物が生育し、ミヤマクワガタ、アサギマダラなどやや標高の高い環境に生息する昆虫類も確認されました。



動植物調査方法

調査：(株)地域環境計画、住友林業緑化(株) 調査期間：2025年5月～2026年1月



哺乳類

フィールドサイン(足跡や食痕など)を探すほか、自動撮影カメラやパッドディテクター等の特殊な調査器材も使用して調査をします。



両生類・爬虫類

両生類及び爬虫類の直接観察したり、その抜け殻や死骸等を探して、確認された種類を記録します。



昆虫類

目視確認及び捕虫網を用いて昆虫を採集し記録します。分析が必要なものは、室内で同定を行います。主に地表を徘徊する昆虫類の把握を目的にベイトトラップの設置も行いました。



鳥類

双眼鏡を使って姿を目視確認したり、鳴き声を聞くことで種類を識別・記録します。望遠レンズが付いた一眼レフカメラを用いて写真の記録も行いながら調査をします。



植物

調査範囲を歩いて、確認された種類を記録します。現地での同定が困難な種については、標本を作成し、室内で同定を行います。